

目 次

第1章 建築物の環境衛生行政

1-1 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」（略称 建築物衛生法） のあらまし	2
1-1-1 建築物衛生法の制定	2
1-1-2 建築物衛生法の目的	2
1-1-3 特定建築物とは	2
1-1-4 防除の対象になる動物	3
1-1-5 建築物環境衛生管理技術者	3
1-1-6 登録制度	4
1-1-7 建築物環境衛生管理基準	5
1-1-8 維持管理の方法に関する基準	5
1-1-9 建築物環境衛生維持管理要領	6
1-1-10 建築物における維持管理マニュアル	6
1-2 ねずみ昆虫等関係法規	7
1-2-1 食品衛生法	7
1-2-2 学校保健安全法	7
1-2-3 学校給食法	8
1-2-4 労働安全衛生法	8
1-2-5 官公庁施設の建設等に関する法律	8
1-2-6 建築基準法	8
1-2-7 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）	9
1-2-8 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）	9

第2章 防除作業従事者の責任と任務

2-1 防除作業監督者と防除作業従事者	12
2-2 防除作業従事者の責任と任務	12
2-2-1 調査する技術	12
2-2-2 報告、提案する技術	13
2-2-3 薬剤、機材を正しく用いる技術	13
2-3 サービスマンとしての心得	13
2-4 日常的な業務実施の心得	14
2-4-1 事前準備	14
2-4-2 作業車による移動	14

2-4-3	現場での心得	15
2-4-4	作業実施後の心得	16
2-4-5	報告書作成の心得	16

第3章 建築物構造や設備とネズミ・昆虫等

3-1	建築物と有害生物	20
3-2	建築物内部で生息する有害生物	20
3-2-1	ネズミ	20
3-2-2	ゴキブリ	22
3-2-3	チョウバエ	22
3-2-4	チカイエカ	24
3-2-5	ハエ・コバエ類	26
3-2-6	その他の害虫類	26
3-3	建築物外部から侵入する有害生物	27
3-3-1	走光性侵入昆虫	27
3-3-2	歩行性侵入節足動物	27
3-3-3	その他	27

第4章 ネズミ害虫防除概論

4-1	ネズミ・害虫防除の必要性	30
4-2	防除とはどのようなことをいうのでしょうか	31
4-3	アイピーエム (IPM)	31
4-4	PCO の役割	32
4-5	ネズミ・害虫防除の方法	32
4-5-1	環境的な対策	32
4-5-2	施設改善による対策	33
4-5-3	薬剤による対策	33
4-5-4	器械・器具による対策	34
4-5-5	生物を利用する対策	34
4-6	ネズミ・害虫防除の進め方	34
4-6-1	IPM で行うべきこと	35
4-6-2	進め方の基本	35
4-6-3	生息実態調査	36
4-6-4	実施計画	36
4-6-5	防除作業	36
4-6-6	効果判定	37
4-6-7	事後処理	37
4-6-8	報告	37

4-6-9 維持管理水準	37
--------------	----

第5章 殺鼠剤の種類と使用法

5-1 殺鼠剤とは	40
5-2 殺鼠剤に必要な条件	40
5-2-1 毒力	40
5-2-2 喫食性	40
5-2-3 安全性	41
5-3 殺鼠剤の長所と短所	41
5-4 殺鼠剤の成分	41
5-4-1 急性殺鼠剤	41
5-4-2 抗凝血性殺鼠剤	42
5-5 殺鼠剤の剤型	43
5-6 殺鼠剤の抵抗性	43
5-7 忌避剤	44
5-8 殺鼠剤の安全使用	44
5-9 事後処理	44

第6章 殺虫剤の種類と使用法

6-1 殺虫剤の意義と役割	48
6-2 法律上の位置づけ	48
6-2-1 医薬品・医薬部外品の殺虫剤	49
6-2-2 動物用医薬品・医薬部外品の殺虫剤	49
6-2-3 農業用の殺虫剤	49
6-2-4 生活害虫用殺虫剤	50
6-2-5 シロアリ駆除用殺虫剤	50
6-3 殺虫剤の名称	50
6-4 殺虫剤の毒性	50
6-5 殺虫剤の有効成分	51
6-5-1 塩素剤	51
6-5-2 有機リン剤	51
6-5-3 ピレスロイド剤	51
6-5-4 カーバメイト剤	52
6-5-5 昆虫成長制御剤	52
6-5-6 その他の有効成分	52
6-5-7 忌避剤	52
6-6 殺虫剤の効力	53
6-7 殺虫剤の剤型	54

6-8	処理方法	55
6-8-1	残留処理	55
6-8-2	毒餌処理	55
6-8-3	ULV 処理	56
6-8-4	煙霧処理	56
6-9	殺虫剤使用上の注意	56
6-10	殺虫剤の効果が上がらない理由	56
6-11	殺虫剤の廃棄方法	57

第7章 防除に使用する機器類

7-1	調査用器具	60
7-1-1	照明器具	60
7-1-2	捕獲用具	61
7-1-3	顕微鏡	64
7-1-4	その他の調査器具	65
7-2	安全器具	67
7-2-1	防護用器具	67
7-2-2	事故防止用の器具	68
7-3	防除用機器	69
7-3-1	散布（散粉）用機器	69
7-3-2	捕獲器具（トラップ）	73
7-3-3	配置器具	75
7-3-4	その他の防除機器	76

第8章 防除作業の安全及び衛生

8-1	建築物ねずみ昆虫等防除業の労働災害の現状	80
8-2	健康管理	80
8-3	安全に対する心構え	81
8-4	薬害事故防止	81
8-4-1	薬剤の保管	81
8-4-2	薬剤の調整時・使用時の注意事項	81
8-4-3	作業者の衛生管理	82
8-4-4	中毒時の対応	83
8-4-5	人や環境への配慮	83
8-5	火災事故発生防止	85
8-6	作業による従事者の事故防止	86
8-7	汚損・破損防止	87
8-7-1	薬剤による影響	87

8-7-2 作業による影響	88
8-8 交通事故防止	88
第9章 ネズミの生態と防除	
9-1 種類と生態	92
9-1-1 建築物に生息するネズミ	92
9-1-2 生態	92
9-1-3 被害	93
9-2 対策の進め方	95
9-2-1 生息調査法	95
9-2-2 具体的な対策	98
9-2-3 事後処理	101
9-2-4 効果判定	101
9-3 維持管理水準	102
第10章 ゴキブリの生態と防除	
10-1 種類	104
10-1-1 主なゴキブリの形態的特徴	104
10-2 生態	105
10-2-1 生活史	105
10-2-2 生態と習性	106
10-3 対策の進め方	107
10-3-1 事前調査	107
10-3-2 防除計画	110
10-3-3 防除方法	110
10-3-4 効果判定	111
10-3-5 報告	112
10-4 維持管理水準	112
第11章 蚊の生態と防除	
11-1 蚊の種類と生態	116
11-1-1 主な種類	116
11-1-2 生態と習性	116
11-2 対策の進め方	117
11-2-1 発生種の調査	117
11-2-2 防除方法	118
11-2-3 処理に当たっての注意事項	119
11-2-4 効果判定	119

11-3	維持管理水準	119
第12章 ハエ・コバエの生態と防除		
12-1	種類と生態	122
12-2	対策の進め方	124
12-2-1	発生種の調査・同定	124
12-2-2	防除方法	124
12-2-3	処理に当たっての注意事項	125
12-2-4	効果判定	125
12-3	維持管理水準	125
第13章 ダニの生態と防除		
13-1	ダニの種類	128
13-1-1	ダニの生態	128
13-1-2	ダニの問題点	131
13-2	対策の進め方	132
13-2-1	対策を進める上での問題点	132
13-2-2	調査方法	133
13-2-3	防除方法	134
13-2-4	効果判定	137
13-3	維持管理水準	137
第14章 その他の害虫の生態と防除		
14-1	建築物内で見られるその他の害虫類	140
14-2	食品から発生する害虫	140
14-2-1	主な種類	140
14-2-2	対策の進め方	141
14-3	木材から発生する害虫	141
14-3-1	主な種類	141
14-3-2	対策の進め方	142
14-4	畳、敷物から発生する害虫	142
14-4-1	主な種類	142
14-4-2	対策の進め方	143
14-5	ネコノミ	143
14-5-1	習性	143
14-5-2	対策の進め方	144
14-6	トコジラミ	144
14-6-1	習性	144

14-6-2 対策の進め方	144
14-7 アタマジラミ	145
14-7-1 習性	145
14-7-2 対策の進め方	145
14-8 イエヒメアリ	145
14-8-1 習性	145
14-8-2 対策の進め方	146
14-9 カメムシ類	146
14-9-1 主な種類	146
14-9-2 対策の進め方	146
14-10 ユスリカ類	147
14-10-1 主な種類	147
14-10-2 対策の進め方	147